

# Star Fish Journal

## 2012年7月アーカイブ

### 貴船神社

tsuji (2012年7月22日 16:16) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)



鴨川の水源地にあたり、古来、水の神さまとして崇敬を集めています。



時期的には少しまだ早いか、そろそろ見られるかもしれません。昼間ということもあってホテルの姿を見ることはできませんでした。幼虫でも輝いたりするみたいで、夜に登れば光が動くのをみれるかもしれません。



平安時代に訪れた、沢に飛ぶ蛍も私の体から抜け出した魂ではないかと恋しさに悩む和泉式部に、貴船神社は滝の水玉のように魂が飛び散るほど思い悩んではいけないと返したそうです。



えんむすびの神様としても知られています。

### カテゴリ

#### 月別 アーカイブ

[2012年8月 \(5\)](#)  
[2012年7月 \(6\)](#)  
[2012年6月 \(7\)](#)  
[2012年5月 \(4\)](#)  
[2012年4月 \(6\)](#)  
[2012年3月 \(6\)](#)  
[2012年2月 \(6\)](#)  
[2012年1月 \(8\)](#)  
[2011年12月 \(9\)](#)  
[2011年11月 \(5\)](#)  
[2011年6月 \(3\)](#)  
[2011年5月 \(1\)](#)  
[2011年3月 \(1\)](#)  
[2011年2月 \(4\)](#)  
[2011年1月 \(7\)](#)  
[2010年12月 \(6\)](#)  
[2010年11月 \(4\)](#)

### ウェブページ

[このブログを購読](#)



### 検索

#### このアーカイブについて

このページには、**2012年7月**に書かれたブログ記事が新しい順に公開されています。

前のアーカイブは[2012年6月](#)です。

次のアーカイブは[2012年8月](#)です。

最近のコンテンツはインデックスページで見られます。過去に書かれたものは[アーカイブのページ](#)で見られます。



磐長姫命を縁結びの神として信仰されています。  
瓊瓊杵尊が木花開耶姫(妹)と結婚しようとしたとき、姉妹の父は、磐長姫命(姉)も共に奉りました。しかし、瓊瓊杵尊は木花開耶姫とだけ結婚したので、磐長姫命はそれを恥じ、「縁結びの神として良縁を授けん」と言って当地に鎮まったということです。



今日の参拝者は水で縁結びを占ってみるのもあるかもしれません。  
水占みくじというのがあって、一見真っ白に見える紙を境内の霊泉に浮かべると吉凶が解ります。「大凶」が本当に存在すると、私は引いたわけではないのですが、ということです。(大凶をひいたのではなく、おみくじを)  
乾くと再び文字が見えなくなるので、家でアルコールにつけてみてもと思いますが、くじの内容は変えられませんが、あくまでも参考程度に留めて欲しいとネットに書いてありました。お守りを買いました。



本宮、御神水、天の磐船、結社(ゆいのやしろ)、和泉式部の歌碑、相生の大杉、思ひ川、つつみが岩、奥宮、船形石などを見て回りました。





大勢で参拝に来て、帰りには美味しいものを川辺で食べる楽しみがあるところというのを事前にはあまり調べてから行った訳ではありませんでした。一人で、鞍馬の方にも歩いて行くと言っていた外国人の女性のグループや写真をとってあげた人たちと話したりしながら登ったので、鮎茶漬けをいただきました。



帰りにも駅まで歩いて降っていったので、喉が渇きました。時期的にか時間帯でか分かりませんが、鴨川を外の風にあたって一休みといかなく、店の中からビールで眺めました。

而しかもその性を失わざるは水なり  
(水五訓)というのが気になりました。

## 平安神宮

tsuji (2012年7月19日 11:47) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

昼にはピッタリか少しまだ早いぐらいで、坂の途中で食事を取りました。



豚ロースのカツレツミラノ風サラダ添え

大通りに出てバスを拾う前に、この前に来た時には五条通り沿いにずっと陶器市をやっている見て回ったのですが、この日は坂道を戻り清水焼の湯のみを買いました。そのあと東大路でバス停を探して、そこに載っている路線図を見ている間もないぐらいに202の循環バスが来て、たまに乗ったこともあつ

たので乗車しました。



二条で降車したので、朱色の大鳥居まで下りました。



海外からも日本人もかなり訪れていましたが、境内一面に広がる白い砂にまばらに写っています。

本来の人としての姿にもどること、参拝した時には気づかなかったことなどホームページを読んでみて載せました。

人は本来この世の中でただ一つの命として、自然で無垢な、すがすがしくも清らかな存在です。しかしその姿を保つには相当の努力が必要です。心身を清浄に保つためには、神や祭り、自然の力をかりて謙虚な気持ちに立ち返ることが必要です。本来の人としての姿にもどることを願う。これこそが神道の祈りです。

「神のご意志のまま」に、「神の意に背かない」生活を常に心がけること。「教えられたことを忠実に守る」のではなくて「おのずから神の意志というものを押し量って生きる」信仰が「かんながら」なのです。

「かんながら」の信仰を持ち、信念を取り戻すことは、古くからある豊かな心をとりもどさせてくれるだけでなく、新たな価値観を生み出す大きな手段ともなるものなのです。

## 清水

tsuji (2012年7月16日 14:55) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

ホテルから高瀬川沿いを歩いて  
鴨川を渡り、清水道へ。





坂を登って三重塔を横に見ながら仁王門や轟門などをくぐり本堂へまずはお参り。



その後に、階段を登った境内にある地主神社で写真を撮ったり、説明を読もうとしていた外国人のカップル2人を2ショットでとってあげました。若いかなり綺麗でハンサムな2人で、縁結びの神だということを説明してあげたのですが、どういう反応なのかは微妙なところでした。2人ともまだ結婚していない様な感じでした。



もしかすると駆け落ちでここに来たとも考えられなくはないので、清水の舞台、清水の舞台から飛んだつもりで・・・のことをこちらとしても英語で分かるように話したのですが、恋人なのかどうかというのと切羽詰まった様子ではなかったです。



階段を降りて、音羽の瀧で並んでいる途中に聞くと樹脂で出来ているという、

(家に置いてきて手元にはないのですが)  
 カップ型のを、手頃な大きさでしたので買って  
 柄杓の先にはめ込み、3筋に分かれて落ちる清水を  
 汲んで飲みました(祈願しました)。でも後で  
 考えてみると、このカップは持って帰ってよいの  
 ですが、お茶を入れたり、コーヒーはどうか、  
 ましてやアルコールを飲んだりするのは、  
 清めの水を入れるためにあるものなので、  
 よいものかどうかよく分からなかつたりします。



清水寺を後にするところで、成就院が期間限定で  
 公開となっていて、そちらまで途中、千体石仏群の  
 脇を通り行きました。扉のガラスも割ってしまうと  
 もう現在では、そのような作り方はしていないので、  
 バックバックを肩から降ろし、気をつけるよう、  
 庭も含め建物内も撮影を許可していませんでした。



睡蓮が綺麗に咲き、池に生えている面積もちょうど  
 よかったので、ガイドさんにそのことを聞くと、  
 池は写った月を楽しむためにあるということで、  
 手入れをしてそうになっているということでした。  
 説明のあとに西庭を覗くと、縁先右方の自然石の  
 手水鉢に、鳥が来て水浴びをしていて、また一羽  
 飛んできて、二羽で去っていきました。

## 太秦

tsuji (2012年7月13日 13:23) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

駅に着いたら聞いてみると、ホテルに荷物を置いて  
 こなくても大丈夫ということでしたので、切符は市  
 内の料金のままに電車で直行しました。



日本橋や浮世絵美術館のある吉原通り、水戸藩ラ  
 メンなどここは京都なのになどこから分からない、この  
 辺の人はどう感じているのか。

京都らしいおみやげも含め探しまして、一枚ずつ手  
 作りなために入れてみると横に売っていた額より片隅  
 が若干足りない浮世絵を模し刷ったものや、パソコン  
 には傘をさしてる舞妓さんのシールを大きさとど  
 こがいいのか当ててみて貼り付けました。OSやCPU  
 の元々張り付いているラベルって手首に当たらない  
 ところにありました。



木の葉丼セット

東映太秦映画村は  
実際に時代劇で使用するために屋外につくられた江戸の町の撮影用セットで、撮影のための様々な工夫が凝らされているということでしたが、この日は実際に撮影が行われている東映京都撮影所の方は見ることができないということでした。



後にロケーションスタジオでシネスタジオライブ  
～映画を楽しく見る方法～  
で、映像の制作の過程で話が、撮影を進める途中に面白く変わっていく。見る方法の意図したこととの違う結果になるのが、笑わせるように構成されていてよかったです。

外国人のお供に連れてきた日本人の姿も数多く見かけ、日本人とベトナムの方や、おもちゃの刀を持ってきて、場内のセットを背景に悪ふざけのようなことをして道でビデオカメラで撮影しているイギリスの方とも話しましたが、外国の方も日本人の話し相手がいるといった感じでした。昼に後ろに座っていて私が使っていたカメラにパンケーキレンズをつけていた子はアニメなどのコスプレで来ていて、そういう企画で集まっていて(大勢いて)、今日は神戸から来ましたと言っていました。



からくり忍者屋敷の料金を集め券売機に入れてきてチケットを渡していた従業員は背いや可愛さ? から、何歳ぐらいなのか、私には若く違法労働に思えたので、聞きました。忍者が武士に刀を振り上げ切れないために天井の低い屋敷になっているためか、他の女性の方もあまり背が高くなかったのですが、制限とかないようにからくり担当の方も言っていました。



忍者の対立は関西や隣接するあたりが中心なので手裏剣や中村座で服部半蔵～伊賀越忍法帖～など時代劇のアクション(動画投稿可か不明)など、迫力もあり、話などが聞いていて面白かったです。



戻り際に、大江戸大道芸(関東?)、御利益大明神(関西?)なども見ました。キャラクターイベントなども開催されていて年代や居住地など様々な人が楽しめるように、小さい仕掛けやスタッフとの会話からもできていました。

## 川越散策

tsuji (2012年7月 5日 12:54) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

どうしても雨になってしまうと、気分的にもそこへはあまりですし、施設内での鑑賞などにあてていました。

予報を調べたり普段はするのですが、そうしないで、電車の経路とかもあまり見ず、ブラッと、詳細に決めずに、急がず来てみました。



屋にまだ時間もあり、川越八幡宮に。二本のイチョウは寄り添い合い一本に結ばれとあって、中に一緒に入っている小物が欲しく箱から引くのですが、それで最近あまり引かないので今年はおじめてのおみくじに。気になる箇所とか、

大吉でしたが、占う性格のもので、それだからとかで行いが左右されてしまうことではないのですが。



三元豚の角煮定食



そのあと止んでいた雨が落ちてきました。色とりどりにせっかく干していた傘も、濡れてしまいます。下と上で住んでいる方が違うのか、お店の飾りなのでしょうか。



蔵造りの町並みを歩いて回りました。人力車？もあります。



時間に正確な人が造った  
時の鐘は  
時間で音が聞け鳴らす人がいるようですが、  
上には私たちは登れないみたいです。  
下や近くまで行くと、上を見上げ  
暗く、鐘がよく見えません。  
アイスクリームを食べる奥まった  
長椅子に座った隣は2組みの親子づれ。  
ハーフと向こうに住んで、

この町にも戻ってくる感じで、  
完全にバイリンガルでした。



銀行は営業しているみたいです。  
大正特有の雰囲気があるそうです。



道を折れ少し進み、菓子屋横丁です。  
後で入った川越まつり会館にも  
等身大なのもありましたが、  
主人公の多部未華子さんのものがありました。  
つばさの和菓子屋ってこの辺なのか、  
朝(起きるのはあまり)強くない、大体  
パタパタと時間的にしているので、  
なかなか朝ドラとか見れてないことは  
多いです。



川越まつり会館では、山車の交差点での  
90度曲がり方などを聞きましたが、  
覚えている範囲、京都とは違いました。  
台湾から来ている方と話しましたが、  
こちらカタコトの中国語が出来れば  
国のことなど聞けたかもしれません。  
案内の人も、その方に英語でも話しか  
けていました。どの言葉で会話するの  
が通じるのか微妙なところでした。





道で見かける動物たちの一部。  
置いてあるお店の種類とどうしてカメレオンなのか、  
その様子なのか、(やっていたら)入り聞いてみても  
良かったかもしれません。

博物館では刀の企画展のあと、  
展示(撮影禁止)を見て回ったのですが、  
途中から大勢で来た人たちに説明している  
ガイドさんの話を少し遠めから  
聞くことができ、3代に仕え長生きした  
お坊さんや火災の復興と水運など、  
街の変遷と現在のにぎわいなど、  
少し知ることができました。



時間的にどうかとおもいましたが、  
その後に行った川越城本丸御殿を  
閉館まで15分で早足で見え回りました。

そちらを後にしてからも、また雨が落ち  
てきて、駅ぐらいには上がり、喜多院  
など寄りながら、小江戸と呼ばれる道が  
複雑な城下町を歩きました。

## 仕事と生活の旅

tsuji (2012年7月 4日 11:52) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

ぞうの国で生まれ、絵を描いたりと  
ショーや館内の展示でも中心となっている  
ゆめ花。ぞうが実際どのように扱われ  
問題を抱えているのか人とぞう、自然  
との関係も、海外のサーカス  
で使われその後引き取られた新潟の  
動物園の閉館によって、こちらへ来たという  
生まれた場所や正確な月日が不明な  
ようこもいて、考えさせられました。



広大な敷地の勝浦ぞうの楽園も先の方にあるそうで、そちらへ行って動物園のゾウも自然の中でゆっくりと私達ともそのなかで触れ合えるということもあります。

ゾウ以外にもショーや動物タレントとして全国各地に行き、活躍しているということで、動物との触れ合いを、ある意味人間の見たい触りたいように提供しています。

動物のことを、人のためと彼らのためと両方できて、市原ぞうの国は運営が成り立っていると思いました。



このカバがということではなく、動物園の檻にいる動物たちは、これから暑くなるとそうでない地域からやってきたものもいるので、あまり元気がないというか、人が側に来てもだれてしまうかもしれません。折の内側の柵までは、ここは手を伸ばせないようになっていて、少し落ち着かないのか動きまわっていた虎がいました。



飼いならされていないようで、毛並みもきれいで、怖さも印象にのこりました。



さわれる動物も多いですが、危ないものや、おしっこを掛けられてしまったお客さんもいて、注意があります。



孔雀は怒った時か、威嚇、異性の興味を引くためなのか久しぶりに羽を広げた姿を見ました。



自分から泥沼に飛び込むというか、好きで入っているのか、分かりませんでした。



ちょうどこちらに着いた時間は[ぞうさんショーの途中](#)でした。他のエリアを回ったあとに最初からショー、ライド、リフト、ぞうさんのお買い物を見ることができました。



スタッフがタイから来て調教しているので、ゆめ花は小さい時から教えられ、覚えて人のような能力を身につけたのかもしれない。野生に近い生活も、まだ子供ですので、いつかは機会があればできればいいと思いました。

[« 2012年6月 | メインページ | アーカイブ | 2012年8月 »](#)

Powered by [Movable Type](#)